



学校だより

10月号

ふじのき

横浜市立藤の木小学校

校長 今野 裕子

令和5年9月29日

〒232-0061 横浜市南区大岡四丁目10番1号 電話045-731-0606 FAX045-713-7916

学校教育目標

藤の学び合い 響き合い
一人一人を大切にしながら学び合う学校をめざします

一年間の振り返し

校長 今野 裕子

9月も終わりを迎えたにもかかわらず、季節はずれの暑さが続いています。地域界隈で暦通りに咲いている彼岸花を見ると、確実に季節は巡っているのを感じ、少しほっとしています。藤の木の丘を通り抜ける風が心地よく、休み時間には、子どもたちが元気に校庭を駆け回っています。

さて、例年藤の木小学校では、6年生が日光方面へ宿泊体験学習に行っています。ただ、10月末という紅葉シーズン真只中の時期で、多くの観光客が集中する‘いろは坂’の通過に時間がかかっていたため、その後の一日目の学習活動を実施しにくい状況がありました。そこで、子どもたちの学習活動をより充実したものにするために、今年は内容の見直しを行い、ルートを変えて足尾銅山の見学を組み入れることにしました。

記録によると、足尾銅山は16世紀後半には採掘が始められ、17世紀以降は徳川幕府の直轄支配となった後、20世紀初頭にかけて最盛期を迎えたようです。当時、採掘された銅は江戸城や上野の寛永寺などの瓦造りに使われたり、長崎からオランダに輸出されたりしたそうですが、その後の戦中戦後を含めて、日本の近代化に大きく寄与しつつも採掘量が徐々に減っていき、1973年に閉山。今年はこちら、閉山50年の節目を迎えています。

銅は、加工しやすい金属であり、優れた抗菌効果があることから、昔から硬貨に使われてきました。“人類が初めて使った金属”と呼ばれるほどで、現在も流通している10円玉には、約95%の銅が使われています。現代生活に不可欠となった家電・スマートフォン・電気自動車などの電子基盤にも多用されています。産業の発達に欠かせない金属加工ですが、限られた金属資源を最小限に活用する技術の開発や、都市鉱山と言われている廃棄家電などのリサイクルによる金属資源の確保などが、より重要になってきているそうです。同時に、今年の異常な暑さにも象徴されるような世界課題に対して、脱炭素社会を目指す新たな国際ルール『パリ協定』に則り、温暖化への対応を考えていかなければなりません。今回の足尾銅山見学を通して、6年生には、日本の歴史や、その歴史に織り込まれた日本産業の様々な側面を学び、これまで学んだ知識を結びつけて深く考え、社会が直面している世界的な課題について、今自分ができることは何かを探り、力を尽くしていくきっかけを見つけていってほしいと願っています。

さて、2期制の学校にとっては、前期と後期を分ける“期分け”が目前に迫っています。一人ひとりが前期を振り返り、学習の成果や心身の成長を実感し、自分と取り組んでいきたい課題を再認識して、今後につなげていくための一つの節目です。苦手な部分に着目するのではなく、得意な分野を自分の強みととらえ、強みをさらに伸ばしていくことも一つです。いずれにせよ、『昨日より今日、今日より明日』と、少しでも子どもたちの力を高めていくことができるよう、学校としてもこの節目に前半期を振り返り、一年間を振り返っていきたいと思います。